下総毛

目

一日なりとも法華経の神通力を信じ奉る者は仏道を成ずべし。されば先づ此の人は即ち仏なりと思ひ奉るべき

一清浄の眼の妙荘厳王は悪王なれども

今の此二人の母なりと云ふ事の清徳夫人と雲雷音宿王華智菩薩の悪王の後に引きなぐるべきなりとをひくき父の

ちくみをくるまれども神通力をもつて仏道を成ずるなり父王大いに歓喜して邪見

をひるがへし仏に帰依したてまつる清浄なる聖者と成

給ひぬ妙荘厳王とは今の花徳菩薩清浄

九曜文庫

丈人ちとしの仏前光照荘厳寺也 浄蓮浄眼
ハしとの業上業上乃あ寺也
一舎利弗 劫濁乱時 衆生垢重堅貪嫉妬成就諸善根故諸仏以方便力於一仏乗分別説三乗乃法ハ方世界ハ六十神ハ二乗三乗乃法ハ方也
一院の内まへ 秋 [illegible]
一つゝもぎとる 八道尼 [illegible]
一つゝしふあぶふ 支引 [illegible]
一つゝもぎとり 仏道世界 三乗乃法
一もゝとれとり 引 [illegible]

ぜやうよさ衣の法
一あを 一乗乃さゝを法ひく [illegible]
とは法 [illegible]
てとゝ [illegible]
一あり [illegible]
一さの法を 内お家あ [illegible]
一みぶゝの 神人乃祝ハ [illegible]
乃内寄みな世 [illegible]
一ゝよもゝ 一乗
一さのあ 暇 [illegible]
内まぶゝとり

一かりまた　さ夜の衣ひさう行くを寄ても
一さ夜くの浦ぐ　ゑ文ちもも
一うら絶てきくゑ文はもくみくちんゑ文
ど後かり極ゆうんもうら絶てうんとも
一山ゑ文　ゑうゑ文もゑ文あうんとも　舞何也
一切そうそれ極楽の橋ゑ文ちゑ文ちゑ文めん
もゑ文もゑ文もこ　人丸撰別
一沈素ハをのゑ文　ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文
ぐゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文
いゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文
一ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文

とゆがめさだめもも
一いとぐさてゆゑ　此ゆゑ朝と　ゑ文ゑ文ゑ文
ゑて　ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文
一くてにゆゑて　さ夜ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文
一まゑゑ文　院の女房　後一条院位の時　三巻二
さ夜の衣ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文
一狩院　源氏の文也
一ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文
源氏ゑ文ゑ文ゑ文ハ　部隆　ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文
一氏女房ハ　院乃女房と　狩院ゑ文ゑ文ゑ文
世中ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文ゑ文

一奇へ所く　女房は独吟、時をくれハ女は座つも
奇を明ちり
一あのうくもの　桃やも
一桃ハ長ハ　ととハ女房はくもりまくん
也女房より切りまくるとなりがめさむとも
一桃ハ長ハ　女房を長へとかくらうみと也
一三千人の世界　一源氏千　小千世界と長ハ
小千世界千中千世界と長ハ中千世界を
千ハ三千大千世界也　三十二相ハ佛の分ハより対
一貌ハ三十二ある也
一武部ハ長上ハ　中務宮の娘也（中務宮ハ
のたまういまま

只の歌仙ハ　仏法也入そといさ失ハ言
一神ハ入さもる通ハ　仏法也入そといさ失ハ言
長ハ　そ入そ入そ入

の紙為と忘りん 神おろまてはかいれ世の国人
もあるべしとも
一ふうれるや ふうく〜ん紙為ある手也 地ありて
うくでとハ神おろ〜ふくるる〜ふくるる〜地ある分
をらるくるものるれあひぐ神 毒の地おそろ〜
くるぞ〜てをぐ中ばくやし〜ふそい
まはあひ紙へるとも也
一刀ふれる 神垣めくひまをあく海ふるる
一花極 ふくれるる〜きあて神のはるきあはあ
じ也 悪〜くハ神乃ふる毒もあるべしの
ふるるべ

一あもあへく あへくけ地ばるあまるあり
一大臣右大臣 巻大納言 三巻 指大納言
とるるるる 彩中納言 南官也 巻 兼官
宰相中将と云也 嫁 式部卿宮の娘 宰
相の中ゆやまるるべ〜ば 毒人公 政大臣の娘也
一あるもとぐ〜ことも ふるるゆ 光るる井
反へ 地中ふゆ紙ふる
ふ 絶さあとも
一ふ〜しるるぶ

一ちうさんをとりのけ　ちうさんをとりのけ　魚板
一かりさうし　源氏物語の巻名をよべし
一ふのあさうら　入道の宮を源氏ゆるし給ふ
一ちうあるもの　
一もしがくし　難うもあり　源氏
一ふる漏　三巻の世ばかり　五漏
一ふる漏　
一さらさら　
一ふ　三十ばかり　武部
一ふるもんぜや　朽木の梅の実の上ちり
一ふるしまと　ふるしまの梅　ちりもんぜや

一枝もとぎう　朽木の花の面影や
一井の水　入道の宮れんぼく　
一ちうさん　
一中将　式部卿の姫君　
一ふるもの　
一ふるもの　但ふる雨かくもれんを
一ちうさん　
一宮の中　

先ずあはあちこさまの通途の衣冠三帯あり
あつまと一品宮へさ衣のとをあるちかも
一ちはこれ　姫君の代りに用ゐるべし
一ひとへ　ものとハ　一ひとへ　ものうへ　上をさ衣はうるべよ
もうもんあるべし
一右のかさ　宮廷殿と系譜あり
一のとうみとあのまま　紙ひんべんもあれ月毎
らも
一ひのまうでやまこめ　さ衣のうの也　理をうの張白
とさうべし　理を布張白
てこそと云んもうべし

一ちかやとこそのの橋八鼓列やもうり八鼓
中なかうんまて　さ衣八鼓の
しとと楽家八鼓
一うちさくとと　源氏をと先の春ありくを
つとうて　鉢　あ指や　藤の船又　狭あくたき
あうこさに　うう　あざくくうて八位色
こそと云あるべし
一あはあさこ　殺　大臣の氏春氏如給
一和ひ　わが紙ひ　ハあくをとうこ
一花みを　月をうの人八あくとを　一和文の中合
一らとあり　先又も　後聖　指　の聖　名あるべ　國未勤

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一八幡薬師寺宿のさびしさに人こそとはぬ
秋のくれ
一年のわかれも月のおぼつかなきあるかの
年はてゝ一数のこゝ
一夜にもあらぬ年のはるかなりけんいまゝ
いひくらしも
一千年の人もあるうあり
一我もまた　さぞ奇　千年の老木も
ト　[illegible]
しれんも元八一筋よりあるあり　[illegible]

[illegible]
一絵のごとの[illegible]
一秋代　人秋　源氏　宇治春　[illegible]
一紅葉ひろ寺　[illegible]
一[illegible]の潮　[illegible]
一[illegible]
一[illegible]
一

九ねとあらしもぬとまちとりしてをくしての獨ぬ
を家母乃獨をくハいくぢやとはあとへやうれむ
一あまの釣とはいとあまとあそぶらやそ如とをきんとやとも
一くもや　源氏の縁イのさあとえんもあるを
をくて　長谷をみくむとあるもらあくんも
一菊のをくハ　これあり　狭衣等也
一西の新しきくを迎あり　引歌　歌ハ猶とハ宮ちあるもも
一りのあるひの新乃撥さ　引歌　歌ハ　歌ハ
まされ拍あるひのとあるをあるを
一あえををぬ等
一ようの女　引等　実ちあるんるるべし
一ようの女　引等　実ちあるんるるべし
一ようの女　引等　実ちあるんるるべし

一ようの女乃ををくしてある
一ようをくしを　如をくをくをくをくをくハくんハくんを
一あるをくを　姫をくをくをくをくをくをくハ宴相
中ぬや
一張をくをくをくをくる等　ふくれあり
一十絲　十齋　長年
一草紫　紫草　あニ沼く
一光明不絶
一玉をくをくを　風をくをくハをくを如絲ひ
一を風をくをくをくをくをくを

[illegible]
一按察使大納言の舞はまうけ給ふ
一はとりの舞　年は[illegible]ども[illegible]
一あまくだれるとく　源氏の[illegible]
一なとりぐ　[illegible]の[illegible]
一宰相のゆるさるんあるべし
一[illegible]の引手　[illegible]の[illegible]の[illegible]
一あくまとびさうぐ[illegible]
一[illegible]　さしぬ[illegible]
　後のやちんとも
一[illegible]　梅をもてあそべ[illegible]の[illegible]
一[illegible]　[illegible]

[illegible]
一[illegible]
　さうもあるべし[illegible]
　やちんとも
一[illegible]
一[illegible]　さ[illegible]
　[illegible]のぐくまとしてとの[illegible]
一来なりとて　[illegible]
一うとと入
　つくづく[illegible]の山[illegible]
　[illegible]

一かさん　作法
一ものうちまく　ものの
一ものうひあるは　そなうまた
さ長へきむくるる
一ちんうう　ちん代を
一度のはきしゝ　ものさはんしゝ
一んやきく　踏ふ
ものやみきて
ものを切てや
一足ふくりきふ　一
て水度みきう

一ものへ切てハ
ものさ
ものを引やう

一ものをいくるものへ
いざあるれり、
一十五月朔日　鄭の
しても鄭殺て
うし紙あるとハ
不知也
一ものうれ
一ものうは　大度の
一ものハ　さ長ハ
一長ものう　長さの

寄物也

鄭中
殺男
しとを
本文ハ
ものを
ものを
ものを

一さうぞくとは　さうぞくとは又親人への出髪もあり
はもしも

一おぼしきをて　おぼしきをもしらるる也

一ちりもしらん寺　ちりもしらんあるなり

一ふんのそう　あるなり　ふんの物乃母の服忌也

一あるあり　ゆ　文の服忌あめでたき事をもとめあるべし　祝者
祝乃一忌文をはぶくとも　文の事あるべし　この日事　めでたき代一系
まことの文の紙とも　ふるきよりあるべしとも
一ふるとも　若宮を張をもつるとも　ふるきとも
さ安の源也

一あやうふとはたらくへもとの山までもとうさ代又あや
うふるとも也

一すさ衣　すさ衣ハ　みなかみのくもちるさ海で袖ぬるる也
あるくさは紀列也

一さ屋とのあるべしを　さもハてにたる也

一ちの屋乃西時　ちの文あでんりちるとなり
いとあまりうる　見るる後あるあるてるの引前北あ
たり　引前　袖ぬるてあ　あまりぬるとて河海の
みる後あるるくやまんるやもる

一耳と屋をなんぬまで義の文の服ちり　わ所
んはさ衣也

一等覺菩薩の法位也十住十行十廻向十地等覺妙覺の五十二位とやも也

妙覺ハ仏也

一水の如なる市ある所　紀もち紀ゆるるべし

源氏字治巻にあり

一光もなき　さ夜ふけ也又は夜ふかく也

一光もなき　源氏文は奇也

一荷はこ　あとあり

一車小七車　はこてあるべく　我

ありべくハ七車ハ奇あるべし

一家々へ　源氏

くもおろす

一をとりをとり道　ゆへ　姫君送りまとてさもさ

を今上あもれ

一人をゆるさるし　姫君人行

一かのうるおく　源氏乃文の法奇也おまり

一思てもるく　秋乃ゆるるべし

一夜そ小林の　秋虫の地あるべし

一石ゐんし樓の　蘇子樓中霜月夜秋来只為二人長　嘉

一墨深さた　ちるるひまもれ行ゆへ

一あぐそれと　源氏文也　よく似ると

一奇　まくらのしん奇　くれなゐ　衣
一奇　紙ぬり　人あしらひたるあふと云名也
ぬりものもしらぬ物也　稲乃葉八あをくさ所と
けんもつ　さね奇也
一奇　橋川　慌也
一奇　扇てふ　紙ぬり　ものもとて　ぬりものあそこは
赤らくんぬり也　又ぬりものあそこはばくくんぬり也
一奇　つれて奇　今上
一奇　うちかへしさしも　義　あけたりも也又ものもてや
一奇　あとりもとうぬ奇　ふくれもの　源ものもの
多ものあるくハ也何　長文

一奇　たにあるくさ物をと　ぬたくくきんとぬるべきさうも也
一奇　とまるもども　引奇　めの上の今上の奇にてひきこと
ふものとあるぬをとら越しるも也
一奇　蓮　俗生　支帰　俗生　図書　たむまるくぬも也
源氏よりの行
一奇　ちやう　加興丁　川ぶ　むりうこと　ぬぐ
御也　けんあるを
一奇　くまてあり　今上
一奇　紙ぬりあるは　歌ものあつる人ら後もん紙
うつたをの　ぬたるぬ　ぬるぬ　ぬる紙ぬ　ぬぬ
りで　ぬるへ　付　人　歌　ものぬ

さまたげ　比云　法花の人敷はるべし　北一方

一八幡宮　引文　くまの　今上

一神垣の板　同　お春よ　女房ごろは乃　春日

一世ふけどくや　の事也

一凡そ　一条院の　ふの　はりもて也

一文　今上の　ある　八幡　弥陀　ひやくしん　ものの　とや

はりも　元服の　ものと　あくとも　ふた

るべし

一年　津ごろは　引文　これ　今上

一つ　へるんの　ものの　きとた　抽　で

一立人　中文乃　法華　引文　今上の入道　ふ　ん　さ

まくとも　引文　ものの　中　清水　ある

とも　のん　ある　人ぞらむ

一しと　えそ　ものさくん　元　あは　を

ものの　全上

一あるべうし人の　あんるすうはのてふまちるべ

一佛　ものの　止こ不　説　方便

一佛　乃　法門　舎利弗の　場　きされける

一相　のこと　今上の　一文　ちるべ

一三文　赤　牛乃　こえの　娘也

一故実　後一条院ハ此いのうせしかの人ぐして
くれつゝ　思ひもよらぬ今上とゝ申奇也
いとゝ　敢　たしなむ　世のおこひ　ハ物ゝ
しやも
一行歩をまなびそめてもちゐ　陸奥
三門　ものもの　母　乳母　不役　公卿
一かゝり　奇　又　太郎　かゝり　下り　時
一人　事　数　子　乃　はう　母　ものの　ゝ　母
ものも
一さゝのまゝ　若乃　為　煮　元
一ゝすまゝ　ハ　腸　煮　元
ゝ

一ゝとれど　同
一ゝすめの　かまをめて　中　ねの　煙　もゝづゝく
ゝ　名さ　衣の　れ　奇　市　道　世　ゝん　を　む　ゝ　ハ　あ
ゝ　よ　め　ひ　の　奇　ゆ　て　れ　ん　は　ま　て　ゝ　ゝ　り　を　く　生
て　ゝ　ゆ　ゝ　よ　ゝ　も
一ゝ　ち　ゝ　ゝ　ゝ　ハ　波　も　る　ゝ　ゝ　ハ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　も
一ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　形　さ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
一ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

源氏ノ朱雀院の行幸ふりにしかのかたちを夜の
ひかりにさとりへ物をしるべ
一説にて物ぐるひ
あるべしと
此抄のもて色源氏義氏深秘ノ所彩也
少年と書て法名ありく物ぐるひ
と全部色んあるべしとうるおぼ〜
あるべしし

天正十九年三月九日

臨江斎
法眼紹巴

狭衣下 終第四終